



電子写真機変愛

第三夜

綺麗なヒトはよりキレイに。そうでないヒトも

“チェキスクエア” instax SQUARE SQ10 を是非。



写真と文 織本知之
今回ご紹介したinstax SQUARE SQ10は、写真あがるにはデジカメとはまったく違うフワク感があります。このため素人が欲しがってしまい、買えば買ったママ友たちが「じゃーんじゃーん」ってあげてることになるので、そのすぐ後のフィルムパック代が……。

み なさん、写真を撮ったらちゃんとプリントしてますか？

「えっとお……」と口ごもったヒト、ドンマイです。プロだってそんなにしょっちゅうプリントするわけではありません。

しかも、お買い物かごなかで出かけたついでに「ああそういえばそろそろ……」とプリントショップを尋ねありくほどいと待ち遠にひさしきに……と、思わず万葉仮名遣いでプリントしてくれるお店を探してしまうほど無沙汰っす俺の場合。

で、しばらくぶりにプリントしてみればハタと気が付くプリント写真の良さよ愛おしさよ。よし、これからはすぐにプリントしちゃうぞ！ と誓ってからまた幾年月光陰矢の如しっす僕のケースでは。

そんな私をはじめとしたすべての人がこのような悲劇を繰り返さないよう、その場ですぐに感動をプリントできるように富士フィルムはがんばってくれました。

“チェキスクエア”instax SQUARE SQ10でございます。10枚入りのフィルムパックを装填すればシャッターを押すたびにプリントが押し出してくるオートプリントモードや、撮影した画像をメモリーして後で画像リストからプリントしたい写真を選んでプリントすることができるマニュアルプリントモードが選べる親切設計。

もちろん後でプリントするなんて感動が色褪せるようなマネはしたくねえ！ という刹那に生きる若き獅子たちには湯水のようにフィルムパックを消費して経済活動の活性化に努めていただき、我々のように小市民は後から「どれをプリントしようかな……」と画像を慎重に選び総務省統計局の家計調査の数字を押し上げつつ写真プリントの楽しさを感じてゆきたいとかように考えておる次第であります。そしてinstax SQUARE SQ10はメモリーした画

像に後からエフェクト効果を加えることができるので色々試してみたらプリントするのもオススメであります。

画像フィルターは10種類あり、コントラストを強めたりモノクロ変換したりは当然、彩度を下げて想い出映像っぽく加工したり、肌色を滑らかに再現しつつヴィンテージ感を加えることまでできるフィルターもございます。このほかにも撮影した画像の明るさを19段階に調節できる機能や、画像の四隅の光量を調整する「ビネット」などプリントの雰囲気を活かす画像調整機能も充実。ただし惜しいことに調整した画像はinstax SQUARE SQ10のモニターでのみ確認できてパソコンなどへの出力は不可。この絶妙なフィルター効果を楽しみたいのであればプリントをしなさいと、つまりそういうことになっているのでございます。

カメラの基本性能のほうは強力高性能なデジタルカメラには及びませんが、チェキとデジカメの気軽な長所をイイとこ取りした記録画素数1920×1920の約370万画素1/4型CMOSセンサー搭載。内蔵メモリーには約50カット保存可能で、microSD/microSDHCメモリーカードスロットを使用すれば1GBあたり約1000枚もの写真を保存できます。そのへんで捨て値のノーブランド2ギガのマイクロSDでも2000枚保存できますが、ちゃんとしたブランドの16ギガのメモリーカードでしっかりと保存しておけば一日1カットで40年持ちます。32ギガあればひとの一生をそこへ記録することも可能（バックアップ推奨）であります。

そういった思い出を記録する目的のためには携帯性も大事。サイズはややボリュームがありますが、インスタントカメラと思えば超小型の縦127ミリ、幅119ミリ、厚みは47ミリ。重量はおおよそ450g。マイクロUSB端子によりカメラ内で充電でき、フル充電から約160枚のプリントが可能。わたくしテスト中におおよそ300カットほど撮影、20枚ほどプリントしましたが、その間バッテリーインジゲーターはひと目盛りも減りませんでしたので、プリントを行わずに撮影だけに徹すればおそろしくバッテリーが持つカメラのようであります。

搭載されているレンズは35ミリ換算で28.5ミリF2.4、最短撮影距離10センチのスナップ上手で素直な描写を持ち、撮影ISO感度は100から1600の自動切り替え。バルブ撮影や二重露光といった機能も備えたinstax SQUARE SQ10。

スマホの内蔵カメラでは感じない、写真プリントの持つ臨場感と感動をぜひ皆さんも体験してみてくださいませ！

ハイブリッドインスタントカメラ
1/4型CMOSセンサー／3型背面液晶モニター／最短撮影距離10cm／レンズ28.5mm相当F2.4／マイクロSDカード使用／約368万画素／instax SQUARE Film（価格10枚で1350円前後）専用／本体価格オープン（実勢3万2000円前後）
©富士フィルムお客様コミュニケーションセンター
☎050-3786-1711



instax SQUARE SQ10

こんな写真に戀をする

- 1 赤ちゃん
- 2 海辺
- 3 monoマガジン前田編集長
- 4 ホットドッグ
- 5 父ムスメ
- 6 シボレープリントライン
- 7 鯉のぼり
- 8 新緑の渓谷
- 9 旧万世橋駅舎ジオラマ

instax SQUARE SQ10 プリント時画像エフェクト解説

1 赤ちゃん (ビネット調整-60、Luna、露出補正無し)
2 海辺 (ビネット調整0・Cornelius・露出-2/3)
3 monoマガジン前田編集長 (ノーマル、2杯目)
4 ホットドッグ (ビネット調整+70、Cornelius、露出補正-1/3)
5 父ムスメ (ノーマル、生後4か月と生後44年)
6 シボレープリントライン (ビネット調整+MAX、Highline、露出補正-2/3)
7 鯉のぼり (ビネット調整-50、Cornelius、露出補正-2/3)
8 新緑の渓谷 (ビネット調整+20、ノーマル)
9 旧万世橋駅舎ジオラマ (ビネット調整+MAX、Immerse、露出補正-1)



色気のあるテールデザインにズッキンドッキン



どうですシンメトリーなデザインがもたらすこのシンプルな色気。「モニターの横のしかるべき位置に順番にボタンとダイヤルを張り付けましたけど何か？」的なデジ一眼のボタン配置に見慣れた目にはこのシンプルで解りやすく、しかし真ん中すぎて微妙な操作性が新鮮。まあ同時に操作決定する必要はまったくない性格のカメラなので操作感を含んだ全てをエンジョイする所存。

蘇れ、フィルム装填の儀式

フィルム装填のとき、なんとなくドキドキし緊張してしまうのは「フィルムは一度たりとも光に晒してはならない」という鉄のルールを知っている昭和世代だからなのだろうか。しかしいくら緊張しようが「フィルムパックの黄色いマークを合わせて蓋を閉じるだけ」のカンタン操作で失敗しようがないのがなんだかみしくも嬉しい。

ここが可愛いよSQ10

